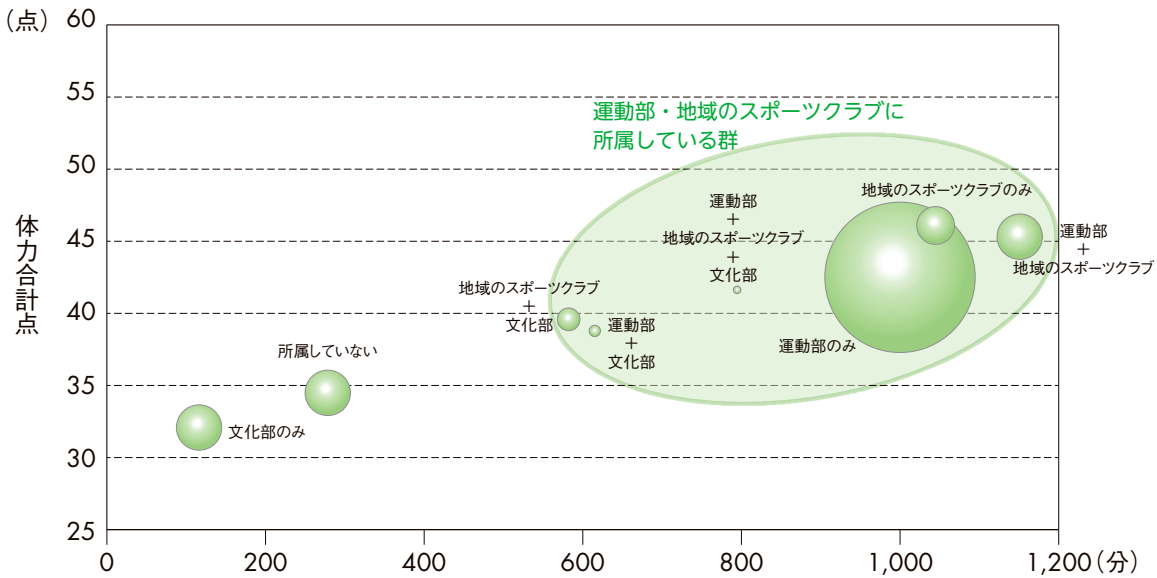


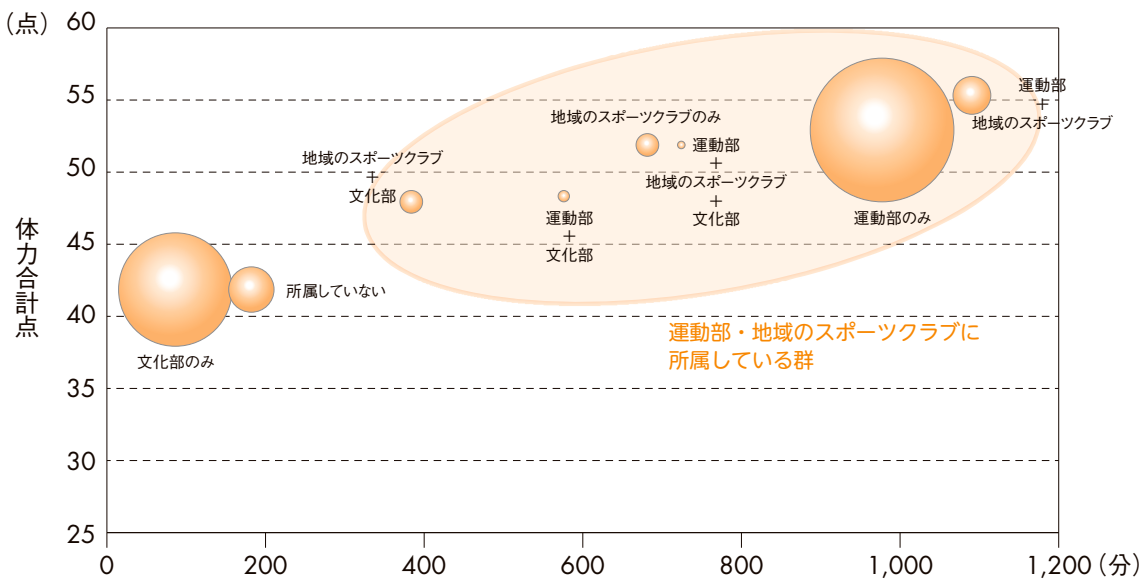
**部活動への所属状況と
1週間の総運動時間、体力合計点 (中学校男女)**

中学校2年生男女とも、学校の運動部や地域のスポーツクラブに所属している群は、1週間の総運動時間が長く、体力合計点が高かった。

男子 有効回答数 521,523



1週間の総運動時間



女子 有効回答数 499,590

中学校2年生男女の部活動への所属状況別に、1週間の総運動時間と体力合計点との関連をみた (→p.162 生徒24)。
それぞれの円の中心と縦軸との交点が体力合計点、横軸との交点が総運動時間、円の大小は人数の多少を表す。

運動部や地域のスポーツクラブに所属している児童生徒は、男女とも、所属していない児童生徒に比べ、体力合計点が高かった。また、中学校で運動部の活動や練習の在り方などについて、自主的に考えたり、話し合ったりする機会がある生徒は、卒業後の運動やスポーツに

対する意欲が高い傾向がみられた。

文化部の活動でも、その目的を達成するために必要だと思われる運動を行っている、行っていない場合よりも、運動やスポーツを「好き」「得意」と回答する生徒が男女とも多かった。また、体力総合評価A+B率が高く、D+E率が低かった。

事例では、部活動における年間を通じた運動計画の整備、体力づくりができる場所の確保と固定化、ダンスや和太鼓など地域に発信する新たな活動などで、部活動の活性化を図る学校の取組を紹介する。

| テーマ |

3

部活動の 充実

運動部はもちろん、文化部においてもその目的を達成するために必要だと思われる運動が取り入れられている場合がある。学校教育の一環として、部活動における体力の向上への影響は大きい。技能だけでなく、責任感や連帯感を育むことや、好ましい人間関係の形成等も、部活動の大きな意義である。部活動の実態とさらなる充実について、分析結果から考えた。

運動部活動の成果

～体力・運動能力、運動習慣等について～

児童生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動であるが、全国の中学生が部活動に所属する割合は大変高い。中でも、運動部に所属する割合（文化部や地域のスポーツクラブと兼ねているものを含む、以下同様）は、男女で差はあるが、ともに高い（→p.162 生徒24）。部活動は、「スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するもの」として中学校学習指導要領に示されているが、生徒の体力・運動能力の向上や運動習慣等にも大きな影響を与えている。

ここでは、特に運動部に所属する生徒の体力・運動能力、運動習慣等に注目し、運動部の活動がもたらしている成果について示していく。

運動部には体力が高い生徒が多く、低い生徒が少ない

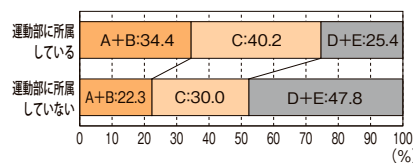
運動部に所属する生徒は所属しない生徒に比べて、体力合計点が高い。これを体力総合評価の段階別でみると、運動部に所属する生徒は、総合評価A+B率が高く、D+E率が低い

ことがわかる。

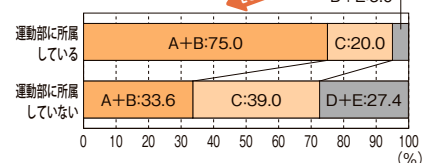
特に女子はそれが顕著で、総合評価A+B率は、運動部に所属する生徒が所属していない生徒の2倍以上で、D+E率は、運動部に所属する生徒が所属していない生徒の5分の1以下であった（図3-1）。

[図3-1] 部活動への所属と体力総合評価との関連（生徒24）

● 男子



● 女子



運動部の女子の運動時間は所属していない生徒の6倍以上

また、運動部に所属する生徒の1週間の総運動時間は、所属していない生徒に比べて長い。これも、男子が約2倍であるのに対し、女子は6倍以上と、女子において特に大きな差がみられた（→p.162 生徒24①×1週間の総運動時間）。

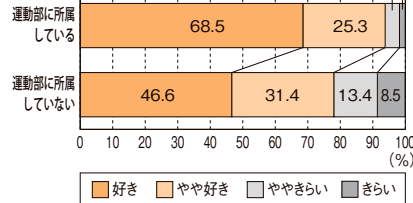
これらのことから、運動部に所属する生徒は、その活動を通じて日常的に運動する時間を確保しており、結果として中学生の体力・運動能力の向上が図られていると考えられる。

運動やスポーツに好意的で前向きな運動部の生徒

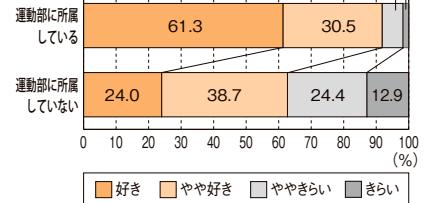
運動部には、運動やスポーツに対して好意的で前向きな態度でかわ

[図3-2] 部活動への所属と運動やスポーツの「好き・きれい」との関連（生徒24×①）

● 男子

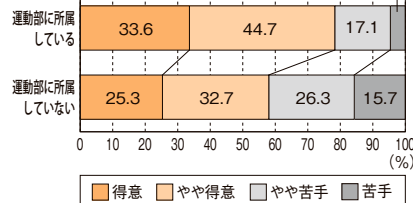


● 女子

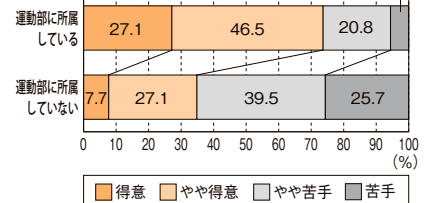


[図3-3] 部活動への所属と運動やスポーツの「得意・苦手」との関連（生徒24×②）

● 男子



● 女子



ることができている生徒が、男女とも多い（図3-2,3-3）。運動部に所属する生徒が、運動やスポーツに

親しみ、楽しんで取り組んでいることがうかがえる。

運動部活動の今 ～運動部活動の運営、学校・教育委員会の取組～

日や季節によって異なるスポーツを行っている運動部

中学校の運動部は、そのほとんどが毎日1つのスポーツ種目に取り組む活動をしている（→p.163 生徒④）。日や季節によって異なるスポーツ種目を行っている運動部の割合は少ないが、体力合計点や1週間の総運動時間を1つのスポーツ種目を行っている運動部と比較すると、特に女子では、1週間の総運動時間が短いにもかかわらず、体力合計点は高い傾向がみられた（図3-4,3-5）。

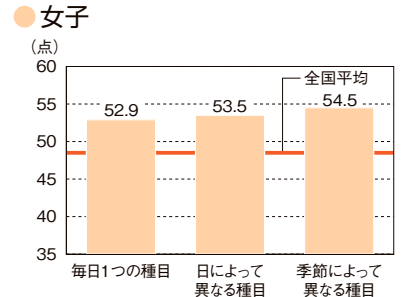
また、運動やスポーツを「好き」「得意」と回答した割合も多く、異なるスポーツ種目に取り組むことが体力・運動能力の向上や運動やス

ポーツに対する意識の高揚に効果的であると考えられる（図3-6,3-7）。

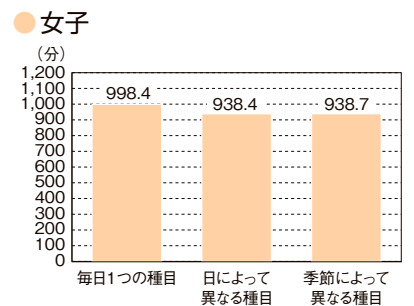
さらに、運動部に所属する多くの生徒が、活動や練習の在り方、内容、方法などについて自分たちで考えたり、意見交換をしたり、顧問の先生や指導者と話し合ったりする機会があると回答した（→p.165 生徒⑥）。

しかし、約2割の生徒はそのような機会がないと回答したことに注目したい。中学校学習指導要領解説保健体育編には、運動部の活動は、「生徒の個性の尊重と柔軟な運営に留意」することが示されており、今後さらに多くの運動部で柔軟な運営がなされることを期待したい。

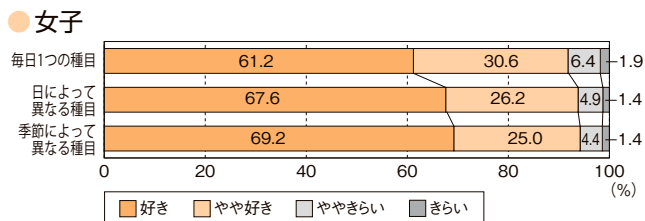
[図3-4] 運動部の活動内容と体力合計点との関連（生徒④）



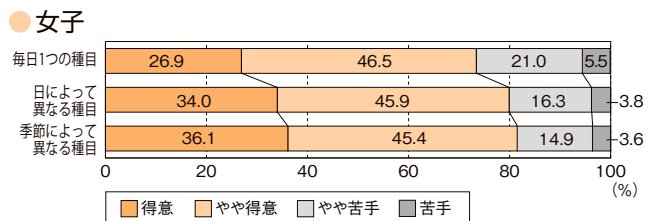
[図3-5] 運動部の活動内容と1週間の総運動時間との関連（生徒④）



[図3-6] 運動部の活動内容と運動やスポーツの「好き・きらい」との関連（生徒④×①）



[図3-7] 運動部の活動内容と運動やスポーツの「得意・苦手」との関連（生徒④×②）



学校の運動部活動に対する取組

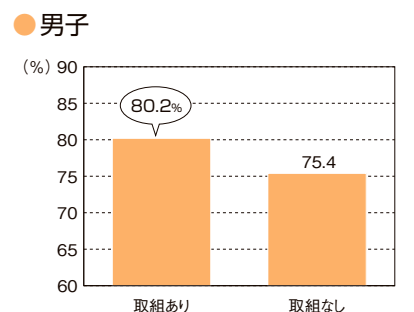
平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組として、「より多くの生徒が活動しやすい運動部活動の運営・指導の工夫改善を行った（行う予定である）」を選択した中学校はあまり多くなかった。しかし、選択しなかった学校と比較すると、運動部加入率は高いことがわかる（図3-8）。

教育委員会の運動部活動に対する取組

平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を受けて、子供の体力向上に関する施策・取組を実施した教育委員会で「運動部活動の在り方や指導内容・方法の改善充実の取組を実施した（実施する予定である）」と回答したのは都道府県では約85%と多かったが、市区町村では約20%にとどまった（→p.178 教委2-2⑬）。

市区町村教育委員会における改善充実の取組が進められることを期待したい。

[図3-8] 運動部活動の運営・指導の工夫改善の取組と学校の運動部加入率との関連（学校⑬⑮×生徒④①）



文化部活動における体力づくりや運動

運動部と並び、部活動の中心となっている文化部についてみると、特に女子の所属率が高いことが目立つ。女子の運動離れが課題となっていることから、文化部の活動における体力づくりや運動の状況と体力・運動能力などとの関連をみてみたい。

体力づくりや運動を行うことがある文化部の生徒は、行わない部の生徒に比べ体力が高い

〔質問25〕で、文化部に所属しているが、部活内で体力づくりや運動を④「行うことがある」と⑤「行うことがない」の回答は、男子で④2.4%、⑤6.5%、女子で④15.9%、⑤20.5%であった。男子に比べて女子の方が、文化部活内でも体力づくりや運動を行う率が高かった（→p.163 生徒25）。

一方、体力づくりや運動を行う文化部の生徒と、行わない生徒で体力合計点を比較すると、前者が後者に比べて高かった（→p.164 生徒25④⑤）。体力総合評価の段階別で見るとその差が顕著となり、体力づくりや運動を行う生徒の方が、総合評価A+B率が女子で特に高く、男女ともD+E率が低いことがわかった（図3-9）。

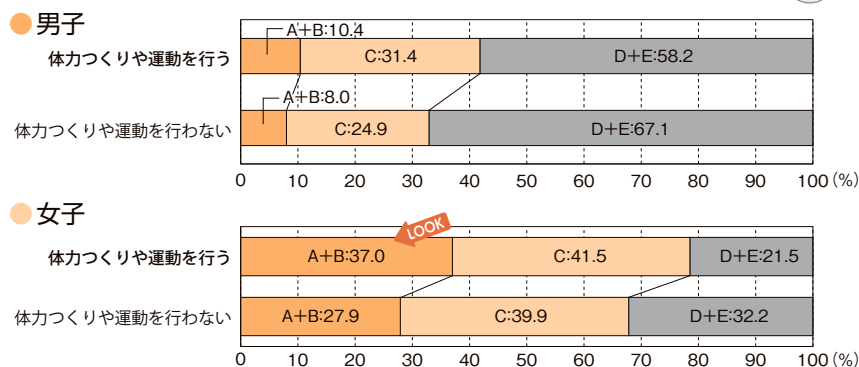
体力づくりや運動を行うことがある文化部の生徒は行わない文化部の生徒に比べ、運動やスポーツに好意的

体力づくりや運動を行う文化部に所属している生徒は、行わない文化部の生徒と比べ、男女とも運動やスポーツを「好き」や「得意」と回答する生徒が多く、特に「きれい」や「苦手」と回答する生徒が少なかった（図3-10,3-11）。これらは、運動部やスポーツクラブに所属する生徒の回答と比較すると大きな数値とは言えない。しかし、文化部活動の目標を達成するために必要な運動を行うことや、部内でのコミュニケーション促進のために運動を行うことが、結果として運動に親しむきっかけとなりとなっている場合も考えられる。

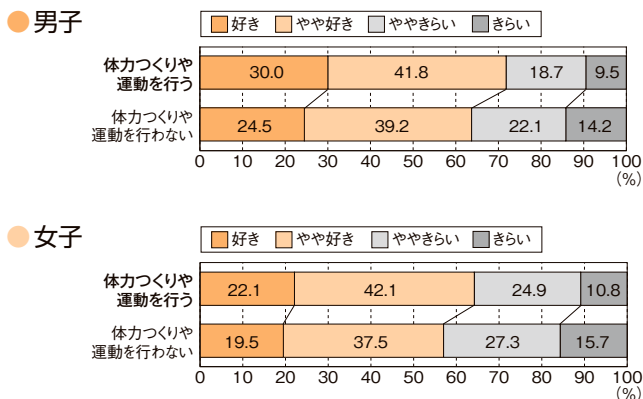
平成24年度の調査では、運動やスポーツを「あまりしない」と回答した生徒でも、その理由として、「運動が苦手で自信がない」「運動をしてみたいと思わない」など、運動やスポーツに対して消極的な回答をしている生徒に比べ、「文化部に所属しているため」を単独で選択した生徒が、体力合計点が高かった。

文化部に所属する生徒においても、目標達成のための活動の一環として必要な運動等を取り入れることが、結果として運動やスポーツに親しむきっかけになることもあるだろう。運動時間の確保や健康・体力の保持増進を図り、文化部活動の目標達成や充実した学校生活を支える一助となれば歓迎すべきことである。

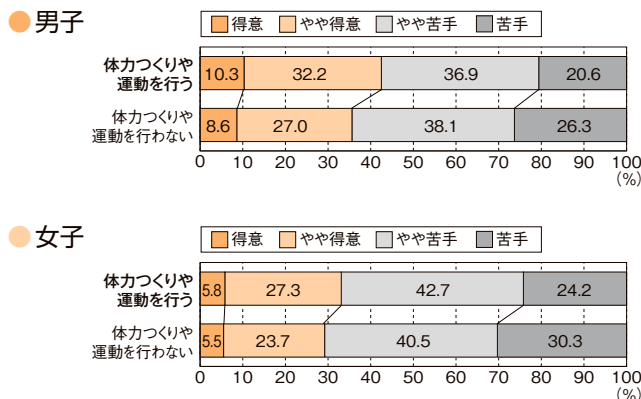
〔図3-9〕 文化部での運動の取組と体力総合評価との関連（生徒25）



〔図3-10〕 文化部での運動の取組と運動やスポーツの「好き・きれい」との関連（生徒25④⑤×①）



〔図3-11〕 文化部での運動の取組と運動やスポーツの「得意・苦手」との関連（生徒25④⑤×②）



運動部活動のさらなる充実に向けて

運動部活動への生徒の多様なニーズ

運動部に所属しない生徒が運動部に所属したいと思う条件（図3-12）として、男女ともに回答の多かった「友達と楽しめる」ことは、部活動の意義である連帯感の涵養や、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成にかかわるものである。顧問をはじめ部全体がその点について大切にしていることを明確に示すことができれば、運動部に参加することを前向きに考える生徒が増えることにつながると考えられる。

このほかに「好きな・興味のある種目を行うことができる」こと、「自分のペースで行うことができる」こと、「練習日数、時間がちょうどよいくらい」であることが回答として多かったことは、生徒の運動部に対する多様なニーズと生徒それぞれの生活環境の多様化が反映されているのではないかと考えられる。

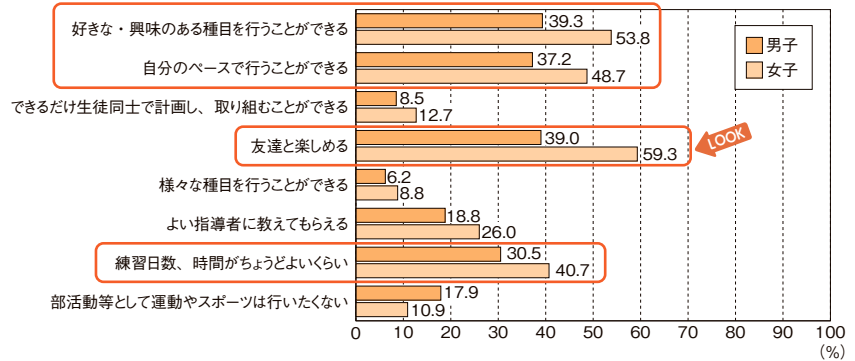
自分に合った種目に、自分に合った環境の中で取り組みたいと考えている生徒の要望に応えることができる部活動運営がなされることで、運動部に参加する、つまり、日常的に運動・スポーツに親しむ生徒が増えることにつながるだろう。

卒業後も運動やスポーツに取り組む生徒を育てるために

運動部に所属する生徒は、中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと回答する割合が高い（→p.65 図5-4）。

しかし、「思わない」もしくは「分

【図3-12】 運動部活動に参加したいと思う条件（生徒27）



小学校における運動部やスポーツクラブでの活動と体力・運動能力、運動習慣等

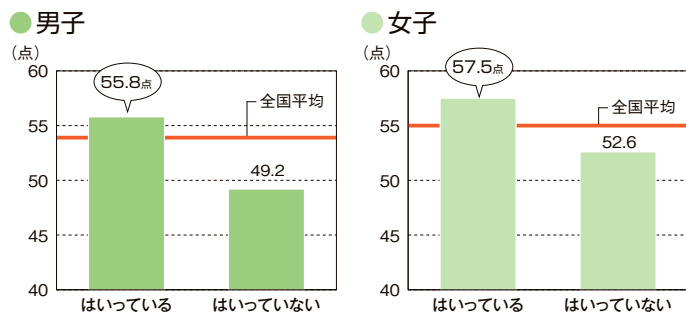
小学校の運動部やスポーツクラブへの所属率は、男女で差はあるものの、多くの児童が取り組んでいる（→ p.132 児童③）。

運動部やスポーツクラブに所属する児童の体力・運動能力は、所属していない児童に比べて高く（図3-13）、運動やスポーツ

に対する態度は、好意的で前向きなようである（→ p.132 児童③×①, ③×②）。

小学校における運動部やスポーツクラブでの活動も、体力・運動能力の向上や、運動やスポーツに対する態度の形成への効果が大きいと考えられる。

【図3-13】 児童の運動部やスポーツクラブへの所属と体力合計点との関連（児童③）



からない」と回答した生徒の割合も少なくないことに注目したい。一方、地域のスポーツクラブに所属する生徒が「思わない」「分からない」と回答した割合は、運動部に所属する生徒に比べて少ない。

生徒の中学校卒業後も続く豊かなスポーツライフの実現のためには、

運動部に所属しながらも、中学校卒業後に運動やスポーツをしようと思わない生徒にどのように働きかけていくかを検討し、指導や部活動の運営を工夫改善することが求められる。